

令和元年 11 月

各位

中学生・高校生のための
日本管弦打楽器ソロ・コンテスト
全部門審査統括委員長 浅野高瑛

第 16 回 中学生・高校生のための 日本管弦打楽器ソロ・コンテストについて

去る 11 月 17 日、ここ東邦音楽大学 川越キャンパスにおいて、中学生・高校生のための日本管弦打楽器ソロ・コンテストの全部門の予選が滞りなく終了し、本選出場者が決まりましたことをご報告致します。毎年のことながら、今年もたくさんの参加者の、素直で一生懸命な演奏に心を打たれました。これも一重に関係各位の皆様の厚いご協力のおかげと感謝致しております。

このコンテストも昨年第 15 回という節目を迎え、今年は 16 年目の新たな 1 ページとして、青森県と鹿児島県での地方予選が加わりました。全地域・部門を合わせて 366 名の参加をいただきました。はじめての地方予選開催に運営上の不安もありましたが、地域の方々の手厚いご協力のもと、終わってみれば素晴らしい結果となり、お世話になりました皆様に対し、この場をお借りして心より御礼申し上げます。また、各地で大変優秀な演奏家としての逸材に出会えたことは、私たち音楽に関わる人間としてのこの上ない喜びであります。

さて、ソロとはその人の持つ個性の表出であることは言うまでもありません。そして、各人の個性のぶつかり合いから生まれて来るものが、本来の意味合いとしての「アンサンブル」と称されるものなのです。欧米では、その個性のぶつかり合いからオーケストラや吹奏楽、そしてアンサンブルなど素晴らしい演奏が生まれてきました。日本においても、スポーツなどさまざまな分野において若い人たちの目覚ましい活躍に注目が集まるなか、クラシック音楽においてもそうした場面を作っていかなければならないと感じております。

音楽は、言葉を超えて個性や主張を育てることに大きく寄与することは間違いありません。このソロコンテストが、日本中の若人たちのよい経験の場となるように、今後とも続けてまいりたいと思っております。そして、そうした一人ひとりのエネルギーが、各地域の文化、音楽における大きな原動力にならんことを期待しております。

今後とも皆様のご参加、ご協力をいただきたく、どうぞよろしくお願い致します。